着部位に特徴を示す可能性が示唆された.

15. アミロイドーシスと骨髄内形質細胞系

（第2病理）豊田　充康・梶田　　昭

非遺伝性全身性アミロイドーシスAL 50例，AA 20例の剖検例で骨髄を免疫組織学的に検索し，各種heavy, light chain産生細胞を算定，検討した．1) heavy chain陽性細胞数とlight chain陽性細胞数との比はAAでは1.0以上，ALでは1.0以下であった．さらにAAではkappa/lambda陽性細胞比は1.0前後であるが，ALではこの値が二峰性に分布し，kappa優位のAL1（20例），lambda優位のAL2（30例）に二分される．2) AAでは各種heavy, light chain陽性細胞数の間に正の相関があり，これらを重複して産生する細胞が存在する事を示している．ALではkappa, lambda陽性細胞数の間にのみ負の相関が認められ，産生細胞の単クローン性増殖を示している．3) AL1とAL2との間では年齢分布に差が認められ，AL1では70歳台，AL2では50歳台にモードがあり，この差は有意（カイ二乗検定，危険率5％）である．骨髄腫の合併は，AL1は5例，AL2は10例で，有意な差は認められなかった．